

科目の内容（シラバス）

②授業科目名		③必修／選択の別	④単位数	⑤含む必須の教育内容番号	⑥担当教員名	⑦実施形態
英語コミュニケーション		必修	2	10・12・13・14・16・ 17・34・46・47	草薙 邦広	対面
⑧授業のテーマ及び到達目標		①【知識・技能】言語的ないし非言語的なコミュニケーションおよびその個人差、発達、習得、喪失、そしてメカニズム等に関する基礎概念を知識を身につける ②【思考力・判断力・表現力】言語教育および言語の専門家として、コミュニケーション一般に関して知識を応用する力を身につける ③【主体性・協働性】言語及びコミュニケーションに高い関心を持ち、他者と協働的に学ぶことができる ＜カリキュラム上の位置づけ＞ 教員の免許状取得のための必修科目				
⑨授業の概要		言語やそのコミュニケーション一般に関して広範な話題について取り扱い、主にグループワークやディスカッションを通して現代社会における社会的実践に資する能力を身につけます。主に以下のような学問分野と深く関わります。 ・言語教育（英語・日本語） ・コミュニケーション研究（言語的コミュニケーション・非言語コミュニケーション・マルチモーダル・記号論） ・コミュニケーションと言語学習の個人差、言語の心理 ・学習方略・コミュニケーション方略 ・心理言語学・言語処理 ・バイリンガリズム・言語と社会				
⑩授業計画						
授業回等	各回の授業内容					各回に含む必須の教育内容番号
1	イントロダクション（授業概要の説明、授業目標、評価方法、課題について）					34
2	コミュニケーションのモデル①（情報構造・談話標識・意味交渉）					14・34
3	コミュニケーションのモデル②（言語処理）					34
4	コミュニケーションとその個人差（言語適性・学習者要因・心理的構成概念）					34
5	コミュニケーション方略と学習方略					10・17・34
6	言語の使用場面（レジスター）と4技能（読むこと・話すこと・聞くこと・書くこと）					34・46・47
7	非言語コミュニケーションとマルチモーダルなコミュニケーション					12・34
8	記号論					34
9	言語獲得・言語習得・言語の喪失					13・16・34
10	第二言語習得①（基本的な仮説群）					13・16・34
11	第二言語習得②（行動主義・生得主義・認知主義）					13・16・34
12	第二言語習得③（社会文化、創発主義、複雑系、批判的応用言語学）					13・16・34
13	バイリンガリズム・翻訳および通訳研究・母語の影響					13・16・34
14	課題研究①：プロジェクトの計画と遂行					34
15	課題研究②：発表					34
16	試験					34
⑪使用テキスト		適宜各授業回において授業資料を配布する。				
⑫参考書・参考資料等		適宜各授業回において授業資料を配布する。				
⑬同時双方向性の確保 （通信で実施する科目のみ）						
⑭学修課程の管理方法 （通信で実施する科目のみ）						
⑮学生等に対する評価 （評価基準・評価方法等）		定期試験（40%、パフォーマンステストを含む、①②③）、授業での課題（40%①②）、毎回の授業での発表・参加度合い（20%③）				